

日本産鳥類記録リスト (7)

日本産鳥類記録委員会*

日本産鳥類記録委員会では活動の一環として、記録が極端に少ない種について、引用可能な文献として公表されたものの調査・収集・整理を行い「日本産鳥類記録リスト」として随時学会誌を通じて公表を行っています。今回はヤイロチョウ科、ヒバリ科、ツバメ科、サンショウクイ科の8種についての調査結果を報告します。なお、この報告は学会による記録公認を意味するものではなく、掲載されている記録の妥当性については未検討であることに注意してください。リストに掲載されていない文献記録をご存知の方は、記録委員会にお知らせください。また、未発表の記録をお持ちの方は、ぜひ、引用可能な文献としての公表をお願いします。このリストの趣旨についての詳細は日本鳥学会誌 51(2): 132-133. 「日本産鳥類記録リスト」を参照してください。委員会が過去に公表したリストや活動報告は、学会のホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/osj/>) にて閲覧可能なので、そちらもご覧ください。

42. ズグロヤイロチョウ *Pitta sordida* (表1)

日本鳥類目録改訂第6版では、記録として1例が挙げられており、この記録は亜種ズグロヤイロチョウ *Pitta sordida cucullata* とされている(目録本文の亜種小名 *cucullata* は誤り)。本委員会の調査により、文献上1例の記録が確認された(表1)。

記録1 (Hiraoka 1989) は、沖縄県石垣市で記録されたもので、記録時の状況と記録された個体の形態、測定値、同定の根拠などが掲載されている。Hiraoka (1989) によれば、この個体はハシブトガラスに追われてガラス窓に衝突したために保護され、その後死亡したものである。Hiraoka (1989) は羽色と測定値から、記録された個体を亜種 *P. s. cucullata* とし、長期に渡って飼育されていた特徴は認められないが、亜種の分布域を考慮すると人為分

布の可能性もあるとしている。園部・谷口 (1986)、日本野鳥の会 (1988) によれば、記録者の漢字表記は「島村 修」。記録された個体のカラー写真(島村 修氏撮影)は日本野鳥の会 (1988) に掲載されている。記録地について園部・谷口 (1986) は「石垣島」、日本野鳥の会 (1988) は「石垣市字平得」と記述している。この記録は、日本初記録として日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1989)、Brazil (1991)、McWhirter *et al.* (1996)、沖縄野鳥研究会 (2002) など多くの文献に掲載されている。記録された個体の標本(仮剥製)は、現在、千葉県山階鳥類研究所に保管されている(標本番号 YIO-23962)。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. Brazil MA (1991) The birds of Japan. Christopher Helm, London.
2. Hiraoka T (1989) The first record of the Hooded Pitta *Pitta sordida* from Japan. J. Yamashina Inst. Ornith. 21(2): 283-285.
3. McWhirter DW, Ikenaga H, Iozawa H, Shoyama M & Takehara K (1996) A Check-list of the birds of Okinawa Prefecture with notes on recent status including hypothetical records. Bulletin of the Okinawa Prefectural Museum (22): 33-152.
4. 日本野鳥の会 (1988) 日本に舞い降りた野鳥たち。野鳥 53(4): 10-21.
5. 日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1989) 日本初記録の野鳥。野鳥 54(1): 38-43.
6. 沖縄野鳥研究会 (2002) 沖縄の野鳥。新報出版, 那覇。
7. 園部浩一郎・谷口高司 (1986) 野鳥識別ノート11 新たに記録された野鳥。野鳥 51(4): 6.

43. クビワコウテンシ *Melanocorypha bimaculata* (表2)

日本鳥類目録改訂第6版では、記録として3例が挙げられており、これらは全て亜種クビワコウテンシ *Melanocorypha bimaculata torquata* とされて

表1. ズグロヤイロチョウ *Pitta sordida*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1984.6.1 保護, 1984.6.6 死亡	沖縄県	石垣市	—	—	1	Osamu Shimamura	保護, 死亡	モノクロ2 (標本写真)	2	1, 3, 4, 5, 6, 7

—: 記述なし・掲載なし

表2. クビワコウテンシ *Melanocorypha bimaculata*

No.	記録 年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の 掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1923.3.22	東京都	八丈島大賀 郷村新田ヶ 平	成鳥	メス	1	初山徳太郎	採集	—	10	1, 3, 7, 11, 12, 13, 18, 21, 26, 27
2	1985.11.19- 28	沖縄県	金武町並里	—	—	1	D. マクワー ター, 池長裕史, 吉堅宗助	観察, 撮影	モノクロ2, 吉堅宗助	14	3, 5, 9, 15
3	D 1986.2.1-3.1	沖縄県	糸満市西崎	—	—	1	Kaneda, Higa	観察	— (関連文 献にあり)	9	3, 16
4	D 1987.4.25	沖縄県	糸満市西崎	—	—	1	McWhirter, Joe Gentile	観察	—	9	3
5	D 1989.3.10	沖縄県	与那国島東 崎	—	—	1	Iozawa	観察	—	9	
6	D 1998.2.13	沖縄県	金武町並里	—	—	1	比嘉邦昭, 大城亀信他	観察	—	22	
7	D 1998.12., 1999.1.6, 8	沖縄県	金武町	—	—	1	比嘉邦昭	撮影	カラー2, 比嘉邦昭	17	6
8*	1999.9.26	北海道	野付郡別海 町	—	—	—	渡辺新平	観察, 撮影	カラー1, 渡辺新平	25	4, 20
9	1999.12.11, 1999.12.26- 2000.2.25	愛知県	幡豆郡一色 町千生新田	—	—	—	瀬戸良二, 下村孝嘉, 杉浦史弥	観察, 撮影	モノクロ1, 瀬戸良二	19	2, 6
10	2000.3.26	沖縄県	国頭郡金武 町並里	—	—	—	内田栄司 他	観察, 撮影	カラー2, 内田栄司	23	17

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 記録者など)のみ

*: 訂正記事あり(本文参照)

いる。本委員会の調査により、文献上10例の記録が確認されたが(表2)、このうち1例については誤同定であるとの訂正記事が公表されている。

記録1(初山 1924)は、東京都八丈島で記録されたもので「附 クビワコウテンシに就いて」として記録時の状況、環境、記録された個体の形態、測定値、行動などについて詳細な記述が掲載されているが、同定の根拠については記述されていない。初山(1924)によれば、記録された個体は、初山徳太郎氏によって銃により採集されたものである。記録された個体の亜種について初山(1924)は根拠を示していないものの基亜種 *M. b. oimaculata* としており、日本鳥類目録も1958年発行の改訂第4版までは亜種 *M. b. bimaculata* としていた。しかし、OSJ(1974)は「亜種は確定していなかった」(原文英語)とし、Vaurie(1959)の分類学的見解を受け入れた上で「地理的な面から *M. b. tarquata* であると確信する」(原文英語)と記述している。また、OSJ(1974)はこの記録について脚注で「この中央アジア産鳥類の日本での記録は明らかに不

可解であり、野生状態での迷行は疑わしい」(原文英語)と記述している。この記録はTaka-Tsukasa & Hachisuka(1925)、初山(1926, 1939)、無記名(1927)、山階(1934, 1942)、Austin Jr. & Kuroda(1953)、清棲(1978)、Brazil(1991)など多くの文献に掲載されている。これらのうちBrazil(1991)では、記録年が「1923 or 1924」と記述されている。これは記録年が1923年と記述されているAustin Jr. & Kuroda(1953)、OSJ(1974)と1924年と誤記されているTaka-Tsukasa & Hachisuka(1925)の全てを引用したことによるもので、実際の記録年は、初山(1924)に記述されている1923年が正しい(標本ラベルでも確認済み)。なお、記録された個体の標本(仮剥製)は、現在、千葉県の山階鳥類研究所に保管されている(標本番号YIO-24087)。

記録2(日本野鳥の会 1986)は、沖縄県沖縄島で記録されたもので、記録時の状況、環境、記録された個体の形態、行動などが掲載されているが、同定の根拠については記述されていない。記録時

の状況は、池長(1986)にも掲載されている。この記録は日本野鳥の会野鳥記録委員会(1986), Brazil(1991), McWhirter *et al.* (1996)にも掲載されている。なお、日本野鳥の会野鳥記録委員会(1986)では記録された日付について「11/28頃まで」と記述されている。また、同文献では「第1発見者 Mac Whirter, D.」と記述されているが「McWhirter, D.」の誤記と思われる。

記録3, 4 (McWhirter *et al.* 1996) は、いずれも沖縄県沖縄島で記録されたもので、記録年月日、場所、個体数、記録者のみが掲載されている。記録3については、記録された個体のカラー写真が沖縄野鳥研究会(1993)に掲載されている。記録3, 4はBrazil(1991)にも掲載されている。

記録5 (McWhirter *et al.* 1996) は、沖縄県与那国島で記録されたもので、記録年月日、場所、個体数、記録者のみが掲載されている。

記録6 (高原ら 2000) は、沖縄県沖縄島で記録されたもので、金田昌士氏私信として記録年月日、場所、個体数、記録者のみが掲載されている。なお、この記録は、高原ら(2000)によって「稀種の参考記録」として扱われている。

記録7 (沖縄野鳥研究会 2002) は、沖縄県沖縄島で記録されたもので、本文には1998年12月に金武町で1羽が確認されたことが記述されているのみであるが、掲載されている写真のキャプションに1999年1月6日と同8日に金武町で撮影されたことが記述されている。また、記録された個体のカラー写真(1999年1月7日撮影)は五百沢ら(2004)にも掲載されている。

記録8 (渡辺 2000) は、北海道別海町で記録されたもので、記録時の状況、記録された個体の形態、行動などが掲載されているが、同定の根拠については記述されていない。この記録については、その後、ヒバリ *Alauda arvensis* を誤同定したものであるとの訂正記事が公表されている(茂田 2000)。なお、この記録は藤巻(2000)にも掲載されている。

記録9 (瀬戸 2000) は、愛知県一色町で記録されたもので、記録時の状況、環境、記録された個体の形態、行動などが掲載され、同定の根拠についても簡単に記述されている。記録された個体のカラー写真は、バーダー編集部(2000)、五百沢ら(2004)にも掲載されている。

記録10 (内田 2000) は、沖縄県沖縄島で記録されたもので、記録年月日、場所の他「その後もしばらくの間、同じ場所にいたが4月6日(木)に

は見当たらなかった」との記述が掲載されている。また、内田(2000)によれば、内田栄司氏の他、数名がこの個体を確認、撮影している。この記録は沖縄鳥類研究会(2002)にも掲載されている。

以上の他、真木・大西(2000)には、本種がトカラ列島で記録されたことが掲載されているが、記録年月日などの詳細が掲載されている文献を確認することができなかったため、ここでは参考として挙げるにとどめる。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. Austin Jr. OL & Kuroda N (1953) The birds of Japan: Their status and distribution. Bull. Mus. Comp. Zool. Harvard **109**(4): 279-613.
2. バーダー編集部(2000) 写真集日本の鳥1999. 文一総合出版, 東京.
3. Brazil MA (1991) *The birds of Japan*. Christopher Helm, London.
4. 藤巻裕蔵(2000) 北海道鳥類目録 改訂2版. 帯広畜産大学野生動物管理理学研究室, 帯広.
5. 池長裕史(1986) クビワコウテンシ観察記. 野鳥 **51**(3): 36.
6. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2004) 日本の鳥 550 山野の鳥 増補改訂版. 文一総合出版, 東京.
7. 清棲幸保(1978) 増補改訂版日本鳥類大図鑑I. 講談社, 東京.
8. 真木広造・大西敏一(2000) 決定版 日本の野鳥 590. 平凡社, 東京.
9. McWhirter DW, Ikenaga H, Iozawa H, Shoyama M & Takehara K (1996) A Check-list of the birds of Okinawa Prefecture with notes on recent status including hypothetical records. Bulletin of the Okinawa Prefectural Museum (**22**): 33-152.
10. 初山徳太郎(1924) 伊豆八丈島採集鳥類目録. 鳥 **4**: 100-109.
11. 初山徳太郎(1926) 伊豆七島八丈島の鳥類に就いて. 動物学雑誌 **38**: 347-351.
12. 初山徳太郎(1939) 伊豆七島八丈島産鳥類に就いて (I) 八丈島産鳥類目録. 科学の農業 **20**: 9-23.
13. 無記名(1927) 第二十七回例会. 鳥 **5**: 318-321.
14. 日本野鳥の会(1986) フィールドノート 野鳥情報観察記録. 野鳥 **51**(3): 34-35.
15. 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1986) 野鳥情報・観察記録 1984.9-1986.7. Strix **5**: 89-98.
16. 沖縄野鳥研究会(1993) 改訂沖縄県の野鳥 写真で見る野鳥図鑑. 沖縄出版, 浦添.
17. 沖縄野鳥研究会(2002) 沖縄の野鳥. 新報出版, 那覇.
18. OSJ [The Ornithological Society of Japan] (1974) *Check-list of Japanese birds. Fifth and revised edition*. Gakken, Tokyo.
19. 瀬戸良二(2000) クビワコウテンシの観察記録. 西三河野鳥の会研究年報 **3**: 19-20.

20. 茂田良光 (2000) 訂正記事2月号のクビワコウテンシはヒバリでした. *Birder* 14(4): 50.
21. Taka-Tsukasa N & Hachisuka M (1925) A contribution to Japanese ornithology. *Ibis*, ser. 2, 1(4): 898-908.
22. 高原建二・池長裕史・金城道男・渡久地豊・金城輝雄・庄山 守 (2000) 沖縄県内において野外観察や傷病鳥の保護及び博物館収蔵標本等により確認された興味深い鳥類の記録について. *沖縄県立博物館紀要* (26): 27-46.
23. 内田栄司 (2000) 金武にクビワコウテンシ *Melanocorypha bimaculata*. *Birder* 14(6): 63.
24. Vaurie C (1959) *The birds of the Palearctic fauna. Passeriformes.* Witherby, London.
25. 渡辺新平 (2000) クビワコウテンシ *Melanocorypha bimaculata*. *Birder* 14(2): 67.
26. 山階芳麿 (1934) *日本の鳥類と其生態* 第1巻. 梓書房, 東京.
27. 山階芳麿 (1942) 伊豆七島の鳥類 (並びに其の生物地理学的意義). *鳥* 11: 191-270.

44. コウテンシ *Melanocorypha mongolica* (表3)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず, Appendix B検討中の種・亜種にも含まれていない. 本委員会の調査により, 文献上1例の記録が確認された(表3).

記録1(北海道野鳥愛護会広報部 2005)は, 北海道天売島で記録されたもので, 日本国内で初めての確認例であることや新聞による報道の経緯などの他「山階鳥類研究所によりコウテンシであるとの確定判断がなされたそうです」との記述が掲載されている. しかし, 記録された個体の形態や同定の根拠についての記述は掲載されていない.

表3. コウテンシ *Melanocorypha mongolica*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 出典 撮影者
1	2005.5.4	北海道	留萌管内羽幌町天売島	—	—	—	安真一郎 他	観察, 撮影	モノクロ1, 1 安真一郎

—: 記述なし・掲載なし

表4. タイワンヒバリ *Alauda gulgula*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の 掲載, 撮影者	出典	関連文献
1 D	1996.3.	沖縄県	与那国島	—	—	—	—	観察	—	1	2
2 D	1997.2.	沖縄県	与那国島	—	—	—	—	観察	—	1	2

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 記録者など)のみ

この記録についての詳細は, 平田和彦氏・倉沢康大氏・九鬼 遊氏・石川隆史氏により「北海道天売島におけるコウテンシ *Melanocorypha mongolica* の日本初記録」のタイトルで日本鳥学会誌 vol. 55 no. 2に掲載予定とのことである(平田和彦氏 私信).

引用文献(文献番号は, 表中の出典の数字に対応)

1. 北海道野鳥愛護会広報部 (2005) 新聞情報から天売島でコウテンシ国内初確認. *北海道野鳥だより* (141): 10.

45. タイワンヒバリ *Alauda gulgula* (表4)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず, Appendix B検討中の種・亜種にも含まれていない. 本委員会の調査により, 文献上2例の記録が確認された(表4).

記録1, 2(真木・大西 2000)は, いずれも沖縄県与那国島で記録されたもので「1996年3月と1997年2月に与那国島で本種と考えられる観察例がある」との記述のみが掲載されている. これらの記録は, 沖縄野鳥研究会(2002)にも掲載されている.

引用文献(文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 真木広造・大西敏一 (2000) 決定版 日本の野鳥 590. 平凡社, 東京.

2. 沖縄野鳥研究会 (2002) 沖縄の野鳥. 新報出版, 那覇.

真木・大西 (2000) にも掲載されている.

引用文献 (文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. バーダー編集部 (1993) 次に出るのはこの鳥だ [北米の鳥編]. Birder 7(7): 14-19.
2. 真木広造・大西敏一 (2000) 決定版 日本の野鳥 590. 平凡社, 東京.
3. 高野伸二 (1978) ツバメ類の見分け方 識別講座 No. 50 . 野鳥 43(8): 35-38.
4. 高野伸二 (1980) 野鳥識別ハンドブック. 日本野鳥の会, 東京.
5. 内田康夫 (1991) 古い記録 新しい記録. 鳥学ニュース (39): 1-2.

46. ミドリツバメ *Tachycineta bicolor* (表5)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず, Appendix B検討中の種・亜種にも含まれていない. 本委員会の調査により, 文献上1例の記録が確認された(表5).

記録1(内田 1991)は, 北海道襟裳岬で記録されたもので, 灯台にて拾得されたことや記録された個体の形態, 測定値などについての記述と標本のスケッチが掲載されている. 内田 (1991) には, 記録された個体の標本が青森県の三上士郎氏所蔵のものであることが掲載されているが, この個体は襟裳岬灯台で拾得された後, 三上士郎氏の元に届けられたもので拾得者は不明とのことである(内田康夫氏 私信). その後, この標本(仮剥製)は移管され, 現在, 千葉県山階鳥類研究所に保管されている(標本番号YIO-24858). この記録は高野 (1978, 1980), バーダー編集部 (1993),

47. タイワンショウドウツバメ *Riparia paludicola* (表6)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず, Appendix B検討中の種・亜種にも含まれていない. 本委員会の調査により, 文献上7例の記録が確認された(表6).

記録1(大西・真木 2004)は, 沖縄県沖縄島に

表5. ミドリツバメ *Tachycineta bicolor*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1962.10.20	北海道	襟裳岬灯台	成鳥	メス	1	—	死体拾得	—	5	1, 2, 3, 4

—: 記述なし・掲載なし

表6. タイワンショウドウツバメ *Riparia paludicola*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1999.11.7	沖縄県	金武町億首川付近	—	—	5	小園 茂	観察	—	2	1
2	2000.5.5-6	沖縄県	与那国島祖内~比川間	成鳥	メス	5日: 1, 6日: 2	真木広造	観察, 撮影	モノクロ1, 真木広造	2	1, 3
3	2002.4.4-6	沖縄県	与那国島祖内, 久部良	—	—	1	真木広造	観察	—	2	4
4	2003.5.15	沖縄県	与那国島祖納近くのティンダハナタ	—	—	1	宇山大樹	観察	—	5	
5	2004.5.5	沖縄県	与那国島満田原水田	—	—	1	宇山大樹	観察	—	6	
6	2004.11.10	沖縄県	与那国島宇良部岳	—	—	1	宇山大樹	観察	—	7	
7	2005.11.25	沖縄県	与那国島久部良	—	—	1	宇山大樹, 仲嵩	観察	—	8	

—: 記述なし・掲載なし

で記録されたもので、「小園 茂私信」として記録年月日、場所、個体数と記録された個体の行動について掲載されている。この記録は真木・大西(2000)、沖縄野鳥研究会(2002)にも掲載されている。

記録2(大西・真木 2004)は、沖縄県与那国島で記録されたもので、記録時の状況と環境、記録された個体の形態、同定の根拠などについて掲載されている。大西・真木(2004)は、この記録(2000年5月5日に観察、撮影された個体)が「写真の証拠を伴う日本初の個体である」としている。また、大西・真木(2004)は記録された個体の亜種同定について「分布的・地理的に見ても亜種 *R. p. chinensis* が渡来したと推測される」と記述している。なお、大西・真木(2004)に掲載されている写真の和文キャプションには、撮影年月日が「2000年5月3日」と記されているが、英文キャプションでは「5 May 2000」となっており、本文でも観察日時「2000年5月5日～」と記述されているので、和文キャプションは誤植または誤記と思われる。この記録は真木・大西(2000)、沖縄野鳥研究会(2002)にも掲載されており、真木・大西(2000)には記録2と同一個体の写真が掲載されている(大西・真木 2004)。

記録3(大西・真木 2004)は、沖縄県与那国島で記録されたもので、「真木広造未発表」として記録年月日、場所、個体数と「この時は祖内と久部良で異なる時間帯に観察されたが、すべて同一個体であるかは不明である」との記述のみが掲載されている。この記録は宇山(2002)にも掲載されており、記録された個体の行動と「4月4~6日まで、同一個体と思われる1羽が観察された」との記述が掲載されている。

記録4(宇山 2003)、記録5(宇山 2004)、記録6(宇山 2005)、記録7(宇山 2006)は、いずれも沖縄県与那国島で記録されたもので、記録年月日、場所、個体数の他、記録された個体の行動などについて短い記述が掲載されている。また、記録7については、同日2カ所で観察されており「同一個体であろうと思われる」と記述されている(宇山 2006)。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 真木広造・大西敏一(2000) 決定版 日本の野鳥 590. 平凡社, 東京.
2. 大西敏一・真木広造(2004) 沖縄県与那国島におけ

るタイワンショウドウツバメ *Riparia paludicola* の日本初記録. 日鳥学誌 53: 45-46.

3. 沖縄野鳥研究会(2002) 沖縄の野鳥. 新報出版, 那覇.
4. 宇山大樹(2002) 与那国島・春の鳥類 I (2002年3月10~5月1日までの観察記録) 概要版. Hobby's World, 東京.
5. 宇山大樹(2003) 与那国島・春の鳥類 II (2003年3月10日~5月16日までの観察記録) 概要版. Hobby's World, 東京.
6. 宇山大樹(2004) 与那国島・春の鳥類 III 2004年3月9日~5月7日・5月21日~5月31日の観察記録 概要版. Hobby's World, 東京.
7. 宇山大樹(2005) 与那国島・秋の鳥類 II 2004年9月24日から11月30日の観察記録 概要版. Hobby's World, 東京.
8. 宇山大樹(2006) 与那国島・秋の鳥類 III 2005年9月3日から11月30日の観察記録 概要版. Hobby's World, 東京.

48. アサクラサンショウクイ *Coracina melaschistos* (表7)

日本鳥類目録改訂第6版では、記録として1例が挙げられており、この記録は亜種アサクラサンショウクイ *Coracina melaschistos intermedia* とされている。本委員会の調査により、文献上4例の記録が確認された(表7)。

記録1(松本 1976)は、宮崎県延岡市にて記録されたもので記録時の状況が掲載されている。記録された個体の形態については内田(1972)に掲載されている。松本(1976)は記録された個体数を記していないが、内田(1972)には1羽と記述されている。記録時の状況について、内田(1972)は「収得された」と記述しているが、松本(1976)によれば銃によって採集されたものである。内田(1972)、松本(1976)のいずれも記録された個体の年齢や同定の根拠については記述していない。記録地について清棲(1978)は「延岡市の城山」、内田(1972)は「延岡市三須の山中」、Brazil(1991)は「Nabeoka」と記しているが、松本(1976)によれば「延岡市小野(この)町沖田川上流の山合」に狩猟に出向いた際「山の下の方」近くの雑木林にて採集されたとのことである。なお、清棲(1978)に記録地として記述されている「城山」は、松本(1976)の文中に記されている探鳥地の地名であり、本記録の採集地とは関係がない。内田(1972)の記録地「三須」は小野町に隣接する町の名前である。Brazil(1991)の記録地は延岡(Nobeoka)を誤記したものと思われる。記録された個体は宮崎大学へ送られ(松本 1976)、同大学中島義人氏により内

表7. アサクラサンショウクイ *Coracina melaschistos*

No.	記録 年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の 掲載、 撮影者	出典	関連文献
1	1971.1.10	宮崎県	延岡市小野 町沖田川上流	—	—	—	松本 征	採集	—	5	1, 3, 7, 11, 12
2 D	1971.3月頃	沖縄県	西表島	—	—	—	島田 勉 他	観察	—	5	
3	1975.3.6	沖縄県	西表島大原 仲間川河口 ヤッサ島	—	—	1	各務久子, 岩田郁代	観察, スケッチ	—	2	1, 5, 6, 8, 10
4	3.15	宮崎県	日南市飢肥 城	—	—	—	川野 惇	観察, 撮影	モノクロ1, 川野 惇	9	

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 記録者など)のみ

田康夫氏に照会され、内田氏によって同定および鳥学会にての発表が行なわれた(内田 1972)。この記録が発表されたのは、1971年3月27日開催の日本鳥学会第213回例会であるが(内田康夫氏私信)、この例会の会合記録が掲載されている無記名(1971)には「3. 宮崎県で採集された日本産新記録種について内田康夫」との記述しかなく、具体的な発表内容についてはなにも掲載されていない。記録された個体の亜種についてOSJ(1974)は「未成熟な個体(immature)の標本なので亜種は決定できないが、おそらく地理的な状況から *C. m. intermedia* であろう」と記述している。なお、記録された個体の標本(仮剥製)は現在、所在不明となっている。

記録2(松本 1976)は、沖縄県西表島にて記録されたもので「編集部・注」として「アサクラサンショウクイと思われる小鳥がその後、71年3月ごろに沖縄県西表島(島田 勉ほか)、75年3月6日同島(各務久子・岩田郁代)で観察されており、いずれも雄と思われる」とのみ記述されている。

記録3(各務・岩田 1975)は、沖縄県西表島で記録されたもので記録時の状況や記録された個体の行動についての記述と形態的特徴を記入したスケッチが掲載されているが、同定の根拠については記述がない。各務・岩田(1975)には、この記録について性別の記述がないが、松本(1976)に「編集部・注」として「雄と思われる」との記述がある(記録2の記述参照のこと)。この記録は無記名(1983), Brazil(1991), McWhirter *et al.*(1996), 沖縄野鳥研究会(2002)にも掲載されている。

記録4(無記名 2006)は、宮崎県日南市で記録されたもので記録時の状況や記録された個体の行

動などが掲載されているが、同定の根拠や記録年の記述はない。なお、無記名(2006)は、この記録を「日本で3例目」としている。

以上の他、真木・大西(2000)には、本種が石垣島で記録されたことが掲載されているが、記録年月日などの詳細が掲載されている文献を確認することができなかったため、ここでは参考として挙げるにとどめる。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. Brazil MA (1991) The birds of Japan. Christopher Helm, London.
2. 各務久子・岩田郁代(1975) 西表島にアサクラサンショウクイ. 野鳥40(12): 8-9.
3. 清棲保之(1978) 増補改訂版日本鳥類大図鑑 補遺・総索引. 講談社, 東京.
4. 真木広造・大西敏一(2000) 決定版 日本の野鳥590. 平凡社, 東京.
5. 松本 征(1976) アサクラサンショウクイのこと. 野鳥41(5): 14-15.
6. McWhirter DW, Ikenaga H, Iozawa H, Shoyama M & Takehara K (1996) A Check-list of the birds of Okinawa Prefecture with notes on recent status including hypothetical records. Bulletin of the Okinawa Prefectural Museum (22): 33-152.
7. 無記名(1971) 会合記録. 鳥20: 226-227.
8. 無記名(1983) 八重山地方鳥類目録. 八重山野鳥の会(編) 八重山野鳥の会創立10周年記念誌: 28-38.
9. 無記名(2006) 飢肥に迷鳥アサクラサンショウクイ. 野鳥だよりみやざき(195): 6-7.
10. 沖縄野鳥研究会(2002) 沖縄の野鳥. 新報出版, 那覇.
11. OSJ [The Ornithological Society of Japan] (1974) Check-list of Japanese birds. Fifth and revised edition.

Gakken, Tokyo.

12. 内田康夫 (1972) 日本迷鳥録21 アサクラサンショウクイ *Coracina melaschistos*. 朝日=ラルース世界動物百科 (86): 2.

49. シロハラサンショウクイ *Pericrocotus erythropygus*

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず, Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない. 本委員会の調査により, 文献上1例の記録が確認されたが, 正確な記録年月日が不明なため参考として挙げるにとどめる.

水野 (1976) によれば, 記録者は石垣金星氏, 記録地は沖縄県西表島祖内前泊の浜, 記録写真は無い. 水野 (1976) に正確な記録年月日の記述はないが, 石垣金星氏が珍しい鳥を見たので図鑑を見せてほしいと訪ねて来た際の年月日として「昨年(七十五年)十二月の二日か三日頃だったか」と

の記述が掲載されている. また, 水野 (1976) には, 記録された個体について「飛び方がサンショウクイだったという. 最大の特徴は, 胸に真赤な日の丸みたいに, 模様が付いていたこと」との記述が掲載されている.

引用文献

水野隆夫 (1976) 石垣島の珍客たち. 野鳥41(12): 27-29.

この報告をまとめるにあたり, 文献の提供, 記録内容の確認などに協力していただきました樋口孝城氏, 平田和彦氏, 真野 徹氏, 百瀬邦和氏, 仁村一男氏, 内田康夫氏および山階鳥類研究所の皆様にご心より, お礼申し上げます.

* 日本産鳥類記録委員会: 平岡 考・梶田学・池長裕史・亀谷辰朗・金井 裕・川路則友・西海 功・柳澤紀夫